

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が話し合い「笑顔を絶やさない楽しみ作り」ができる事業所作りをしている。	法人の理念に基づいたホームの理念を実現できるように、スタッフ間で前向きな取り組みがなされている様子がうかがえます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会に入り役員も行っている。利用者は老人会に加入し地域住民とも交流を図っている	事業所として自治会に加入され、地域の活動にも参加している様子です。また、地域の避難訓練についても参加され、ホームの存在を地域に伝えることにつながっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他のGHと連携し地域の老人会や小学校で認知症の啓発活動を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い意見等をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で、ホーム内の運営に関することが定期的に議論がなされている様子がうかがえます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議以外では南区GH会議で市町村担当者との情報交換の場を設けている	圏域内でのグループホーム会議への参加により連携が図られており、認知症についての啓発において地域包括支援センターとの連携が図られています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	法人全体で委員会を組織し全体でもGH内でも定期的に勉強会をおこない、身体拘束をしないよう徹底している	身体拘束に関するマニュアルがあり、勉強会も行われております。また、実際に鍵をかけない対応がなされていて、自由な様子がうかがえます。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会や事業所での研修で高齢者虐待防止を徹底するよう指導している			

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については法人全体の勉強会を通じて理解し、必要な方は利用できるようになっている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明後家族に読み返す時間を取り十分に理解、納得してもらえているようにしている		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、等は要望などは管理者に報告し管理者が早期に対応するようにしている。また法人にも報告し反映するために話し合っている。	相手から寄せられた意見についての対応は十分に行われている様子がうかがえます。ホームとしては重度化が進む中で、ご家族の本意を知りたいと考えておられます。	重度化した時のことやサービスの内容について、ご家族の思いを知るための取り組み方法を検討され、運営に活かされることを期待します。
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月に2回以上は運営者と意見交換や提案等の話し合いを行なっている。定期的に個人面談の機会もある。事業所内では定期的な会議以外にも普段から意見や提案を聴く機会を設けている	定期的な意見交換のための会議が開かれており、意見を聞いてもらやすい環境に配慮がなされています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望には柔軟な対応ができるよう調整している。また、施設行事や利用者の身体状況に応じて職員配置を考えている		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がスキルアップのため、毎月の法人の勉強会や事業所内での勉強会に参加している。また、段階に応じて研修に行くよう指示している		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2カ月に1回の南区GH連絡会以外でも啓発活動や相互研修、現在は研究発表にともに取り組んでいる。また、互いの運営推進会議に行き来するなど交流は深く、サービス向上に取り組んでいる。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接などを通して困っていること、不安や要望を聴き本人の把握に努め信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接などを通して困っていること、不安や要望を聴き家族の思いの把握に努め信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族がどのようなサービス望んでいるのかを見極め、対応し提案している。また、他のサービス利用も含めた対応も視野に入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソン・センタードケアを念頭に入れている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会時はもちろん、普段から密に連絡を取ることで、ともに本人を支えていく関係作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中でなじみの人や場所の話をして、希望があればなじみの場所に出かけたりなじみの人に会えるよう支援している	ご入居時に確認した上で老人会への加入を支援しています。同団地内での交流や友人の面会等についても積極的に支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士気の合う仲間づくりを普段の生活の中の作業や外出などを通しておこなっている。また定期的に他のGHとの交流をして仲間づくりを広げている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後も継続して本人や家族とつながりを断たないようにしている。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活歴を把握し希望や意向を尊重するようにしている。外食や外出の行先も利用者の希望を順番に実施している。また、家族からの助言や情報収集も大切にしている。	アセスメント記録から、思いや意向の把握に努めている様子がうかがえます。また、普段のコミュニケーションの中でも気づきに関する情報共有がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所前に家族や以前利用していたサービス事業所などから生活歴などの情報収集を必ず行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見や不満については管理者に必ず報告している。状況の変化などにも毎日のミーティングや月一回の会議で全員が把握するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析を行う際家族や本人から情報収集し職員や医療関係者の意見も聞きながら介護計画を立てている	医療関係者を交えた会議を行い、計画書作成がなされています。一方で生活の中の楽しみの部分が盛り込まれていると、行われているケアの内容がより分かります。	生活面での楽しみを盛り込んだ現に行われているケアについて、今後の展開を踏まえて計画書に盛り込んでみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に本人の様子等記録し介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の希望を把握し、柔軟に対応できる体制を整えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に一回は近隣からボランティアお協力体制を整えている。また老人会への参加、地域の方に運営推進会議に参加していただくこと、地域の防災訓練に参加するなど地域との関わりを密にしている		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回は主治医の往診があり家族の希望があれば同席してもらい信頼関係をたもてるように支援している	希望により主治医の選択が可能です。また、他科についても必要に応じて受診支援が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常的に看護師と連携を取り日々の利用者の様子などを情報提供をしている。また医療面でのアドバイスを参考に利用者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時にも安心していただけるよう職員や他の利用者で面会に行く機会を設けている。また管理者は家族の了解を得て病院関係者とも密に話し合っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人として緊急時の対応や重度化・看取りに関する指針などを整備し家族・本人から同意を取っている。重度化した際には法人の連携をとれる体制を整えている	重度化や看取りに対する体制を整えておられます。また、継続した医療的対応が必要になった場合でもその都度、その状況を踏まえて家族と話し合いが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人で緊急時の対応の勉強会に参加している。またホーム内の会議でも緊急時の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防署の職員参加の消防訓練のほかにも地域の防災訓練にも参加している。また災害時のマニュアルを職員に配布し、また施設内でも目に付くところに整備している	非常災害時のための訓練等の取り組みをホームだけではなく地域の中でも行われています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を大切に声掛けや対応を指導している。勉強会も開いている。	同じことを繰り返し言う入居者に対して、表情柔らかくさりげない対応がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をまず尊重し一人一人がそれぞれ充実した日々を送っていただけるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分のペースではなく利用者一人一人のペースに合わせている。利用者の意向に沿って生活していただけるよう柔軟な対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回は必ず美容院に行きおしゃれを楽しんでもらうようにしている。また毎日の髪形や衣類などはご本人に選んでもらううえで季節に合った服装ができるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望によってはメニューを変更し外食や出前なども取り入れている。また買い物や調理、盛り付けなども職員と利用者が楽しみながらともに行っている	外食や買い物の支援はもとより、献立に対するアレンジや、盛り付けが得意な入居者には活躍していただける場面を意図的に作っておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	利用者の一日の水分量を把握し記録にも残している。またそれぞれの体調や状況に応じて食べやすい形状にしたりと臨機応変に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。また週一度の歯科往診により健康な口腔内を保っている		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表に毎回記録しその人それぞれの排せつパターンを把握してできるだけおむつ等の使用は避け声掛けや誘導を行っている。	可能な限り排泄用品に頼らずにいける部分をアセスメントし、羞恥心に配慮した対応に心がけている様子がうかがえます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事やおやつを提供したり適度な運動やマッサージなどで便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	二日に一度は入浴してもらうが希望があれば毎日でも可能な体制を整えている	ユニットバスながらも、重度化しても2人での介助により入浴を楽しんでいただける取り組みがなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の話を傾聴し安心して眠れるように支援している。また日中の適度な運動や集中できる作業、温かいミルクなどでリラックスしてもらるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が医師や看護師、薬剤師からの説明をまとめ職員全員に伝達している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が趣味や能力を生かした生活ができるよう支援している		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	基本的には毎日外出し季節等を感じてもらえるよう支援している。また本人の希望する場所に出かけることができるようにも体制を整えている。	買い物、散歩など日常の中での外出はもとより、昨年度には白浜一泊旅行を企画し、出かけるなどの取り組みがなされています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には利用者がお金を支払うことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話や手紙のやり取りは可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有空間に利用者が作った展示物や行事等の写真などを飾り居心地よく過ごせるようにしている	共用空間は広すぎず、落ち着いた環境で過ごされている様子がうかがえます。また、廊下には、はきだし窓からテラスへと出ることが出来、季節感も感じることが出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	府営住宅の為居場所の工夫は困難なところもあるがお互いの居室で気の合う利用者同士談笑する姿がよく見られる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には自宅で使用していた家具などを持って来てもらい、住み慣れた落ち着いた環境を保てるようにしている	使い慣れた物の持ち込みは可能で、入居時に配置を家族と一緒に考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることや分かることを生かし利用者の目線で物事を見るよう努めている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない